

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年11月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2274201884
法人名	(株)日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム ケアリティハーベスト
所在地 (電話番号)	静岡市清水区洪川2丁目14番20号 (054-345-0507)
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年9月29日

【情報提供票より】(平成21年9月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16 人/ 非常勤 1 人/ 常勤換算 16.6 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨準耐熱構造造り 2階建ての1階～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥65,000	その他の経費(月額)	¥18,000	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ¥65,000	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	¥200	昼食	¥400
	夕食	¥400	おやつ	
	または1日当たり			

(4) 利用者の概要(平成21年9月14日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名	
要介護1	6 名	要介護2	5 名			
要介護3	4 名	要介護4	2 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	80.5 歳	最低	59 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桜ヶ丘病院、草ヶ谷病院、大石歯科、しぶかわ内科、滝戸病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街にあって、近くには保険センター兼夜間救急センターや公園が2箇所あるなど環境的に恵まれ、開設4年目を迎えている。職員の補充に悩んでいたが今年7月からこれが解消し、余裕を持って利用者本位の介護サービスが実行されている。また、ホーム長の卓越した指導の下に職員間の和も良く職場内が明るく清潔さが保たれている。利用者個々の状態を把握して、知的・身体的に何が必要なのかの「がまんの介護」を標榜し、目線を相手に合わせたケアの実践を職員全員ができることを目指している。利用者が地域の中で楽しく暮らせていけるようにと、地域とのつながりを大切にしたい取り組みも見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義は理解がされており、前回外部評価での課題については真摯に受け止めほとんど改善を図っているが、運営推進会議の定期的開催が今後の課題として挙げられる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で検討しており、日々のサービスの改善に役立させている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議ではホームからの報告に終始することなく、議題も運営上の身近な問題や介護保険・高齢者の介護など地域の人達への情報提供も視野に取り入れ、定期的な開催が望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>契約時に苦情相談窓口について説明し、意見箱の設置や家族会・家族等の訪問時には意見・不満・苦情を聴取するように心がけている。しかし、ほとんど寄せられていないため、毎月家族等への報告の際、意見など返信していただける工夫を準備している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域社会との共生を目指している。行事や地区の防災訓練等に参加し、ホームの存在感をアピールしている。また、老人会の人達がホーム周辺の草取りをしてくれたり、散歩のときには気軽に挨拶してくれるなど円滑な付き合いが行なわれている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念の下に、地域とともに暮らし続けることを念頭においた理念(人生の実りの時、一緒に笑って暮らす家)を事業所独自のものとしてつくりあげている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目に付きやすい場所に掲出し、職員への意識付や来訪者への周知をも図っている。また、会議等の場においても理念の実践方について話し合いが行なうなどして職員間の共有化に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域社会との共生を目指している。行事や地区の防災訓練等に参加し、ホームの存在感をアピールしている。また、老人会の人達がホーム周辺の草取りをしてくれたり、散歩のときには気軽に挨拶してくれるなど円滑な付き合いが行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解がされており、前回外部評価での課題については改善が図られている。また、自己評価においても職員全員で検討し、日々のサービスの改善に役立たせている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年12月に実施した以降開催されていない。	○	運営推進会議ではホームからの報告に終始することなく、議題も運営上の身近な問題や介護保険・高齢者の介護など地域の人達への情報提供も視野に取り入れ、定期的な開催が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に市の高齢者福祉課や生活支援課、包括支援センターの職員と利用者の生活等について相談・報告を行なって連携を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事等を紹介した「ハーベスト通信」を発行して家族に届けたり、毎月の月次報告や面会時に担当職員から日々の暮らしぶりや健康状態などを報告している。また、健康状態の急変時は、その都度、連絡・相談して家族等との関係を密にするよう心掛けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談窓口について説明し、意見箱の設置や家族会・家族等の訪問時には意見・不満・苦情を聴取するように心がけている。しかし、ほとんど寄せられていないため、毎月家族等への報告の際、意見など返信していただける工夫を準備している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今のところ退職する職員もいなく、30歳台から60歳台までと職員が均等に配置されている。職員の異動には細心の注意を払い、日々のアセスメントの充実を図るなどして少しでも異動による影響を和らげる配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時訓練のほか、段階的に研修・勉強会などを開催している。外部研修への参加や各種資格の取得には機会を確保するなどの支援がされている。また、外部研修参加者にはレポートの提出と会議の場での発表により情報の共有化に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の管理者との交流があり、情報などホームの運営に活用している。職員は、法人内での行ききは多少あるものの、他事業所への訪問や研修・勉強会等への参加を推奨しているが、実行までには至っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に希望があればお試し利用を行っている。また、見学や家庭訪問等によって利用者・家族等の希望や生活歴を把握し入居後の生活に活かしている。場の雰囲気に慣れるように細やかに観察したり、利用者が普段から使い慣れた物や馴染みの物を持参することを奨励している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者自身が出来ること出来ないことを把握しており、同じ目線に立って物事を考え、教え教えられる中でお互いに理解と信頼関係が構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は様子、言葉、表情や仕草など、意思表示の行動を注意深く観察することで、日々の生活ができるだけ利用者の意向に添ったものになるよう支援しているが、まだ十分とは言えない面がある。	○	職員の理解を得るよう会議等での協議のほか、認知症の更なる理解を深めるため、耳からの吸収など発想の転換が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で気づいたことや状況記録と、カンファレンスでの意見をもとに、本人や家族の思い希望も反映させ介護計画を作成している。作成した介護計画は、家族来訪時に説明し認印を貰っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、変化がなければ半年に一度の見直しとなっている。日々の記録の積み重ねの中で状況の変化が生じた場合は、家族の希望・医療関係者の意見を取り入れながら、直ちに状況に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じた柔軟なサービス提供が行なえるように配慮している。医療連携体制を活かして医療・介護両面での支援を実施している。ホーム利用者と地域の人達との交流促進に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関の他、本人や家族の希望により利用前からのかかりつけ医を受診することもできる。契約看護師が週一回訪問し、利用者の健康管理にあたっている。家族と協力し通院介助も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際の対応については、本人や家族の意向を大切にしながら状況変化に備えた取り組みが行なわれている。変化のある時はその都度家族に連絡し、話し合い方針の共有化を行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者に対する言葉かけは丁寧で優しく、一人ひとりの状況に合わせた対応で、個々の尊厳を大事にして入浴時やトイレ誘導などの配慮が行なわれている。利用者の記録は各ユニットの事務室に保管され、職員以外の目に触れないよう管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のリズムを大切に、楽しみごとを暮らしの中に取り入れ穏やかに過ごせるよう支援している。自立度の高い利用者は自分の生活を持つようにし、今何をしたいかを受け止め、無理なく暮らしぶりにあった生活支援を実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握したメニュー作りに配慮している。利用者の意志を尊重しながら持てる力に応じて、食後の片付けなどを一緒に行なうなど食事が楽しみになるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は一日おきに午前と午後に分けて希望する時間に入浴している。利用者の負担にならないような言葉かけ・誘導も試みられている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の能力・趣味を活かして過ごせる工夫をし、生活に変化をもたせ気晴らしに心がけている。ラジオ体操・野菜作り・食事の支度等、利用者の得意な事や出来そうな仕事をお願いして、感謝の言葉を伝え生き甲斐を喚起している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺は交通量も少なく、日常的には散歩や買い物に出かけている。地域の催し物への参加や七夕祭り・花見・ドライブ等季節に応じた外出行事を取り入れて、心身の活性化に繋がるよう可能な限り支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニット入り口にセンサーを取り付け、音で出入が確認できるように工夫をして利用者自らの自由な出入りを支援している。職員の見守りにより散歩など一人で出かける利用者には、居場所確認や声かけをして安全に配慮しながら、自由な生活が出来るよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防・自治会との防災訓練を実施している。日頃から隣・近所とのお付き合いを大切にしている、地域の防災訓練にも参加するなど、住民の協力も得られる体制が構築されている。防災グッズや非常食・水などの備品もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量を毎日記録し、各人の状況を職員全員で把握し、日常の支援に活かしている。食事は利用者の好みに合わせたり、食べやすいように個別に工夫されており、フロアごとの特色を持った栄養バランスのよい献立が作成されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂・廊下はスペースが広くゆとりある空間となっている。ホーム内は掃除が行き届き快適で、オープンスペースとして利用できる畳の間があり、利用者が気軽に集い楽しむ共用空間となっている。エレベーターで行き来し、利用者間の交流や自由にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内にはベッド・タンス・椅子等馴染みの家具やカーテンを持ち込み取り付けられている。使い慣れたミシンや製作のプラモデルなど、一人ひとりの好みや趣味を活かした品々に囲まれ、落ち着いて過ごせる自分の部屋になっている。		